

●概要

2022年11月29日にイオンコンパス幕張会議室にて、第二回研究交流会「We ♥ Genetics Vol.2」を開催いたしました。参加者は21名（うち幹事8名）でした。今回は当会にて、初の試みとなる招待講演会と参加者研究フラッシュトークを行いました。



招待講演では、総合研究大学院大学の寺井洋平博士、東京工業大学の茶谷悠平博士にご講演頂きました。寺井先生には「ニホンオオカミゲノムから知るイヌの起源と進化」をテーマにお話頂きました。参加者に対する「イヌとオオカミの違いは何か？」という問いかけから始まり、イヌとオオカミの形態的な違いやイヌが家畜化した文化的背景など、系統解析などの遺伝的な背景に限らず、さまざまな研究グループの報告を交えたお話は、参加者にとって興味深いもので

した。

茶谷先生には「遺伝情報を拡張、再定義する非典型的翻訳の再構成」をテーマにお話頂きました。翻訳機構の始まりから、「ribosome hopping」と呼ばれる特徴的な非典型翻訳機構について、丁寧に概説して頂きました。続いてribosome hoppingのメカニズムについて、時にはユーモアを交えた例えを用いて下さったお陰で、会場からは笑い声も聞こえました。複雑なテーマでありながら、初学者でも分かりやすくご説明頂き、非常に勉強になりました。お二人のご講演について、参加者の皆様からは絶えず質問の手が挙がり、活発なディスカッションがありました。異分野の研究者が集まる、遺伝学若手の会ならではの様子を伺うことができました。



参加者フラッシュトークでは、事前参加登録をされた20名が、スライド1枚を用いて、1分間程度の研究発表を実施しました。参加者一人ひとりの個性が光る発表となり、終了後の会場では研究者同士の交流が生まれるなど、当会開催の目的としていた研究者交流の起点となることができ、有意義な時間となりました。

イベントには学生とポスドクその他、アカデミア以外の研究員の参加もあり、多様な観点からの活発な議論が生まれ、終始良い雰囲気で行進できました。

●参加者の感想

参加者アンケートでは、9名の回答を頂きました。アンケート回答者の8名から満足度5の高い評価を得ました。以下にその一部を紹介します。

講演会について

「paleogenomicsと生化学という全く異なる分野の最新話題が提供され、非常に良い刺激を受けた。」

「初めて聞く技術や事象ばかりで面白い、かつ勉強になった。」

フラッシュトークについて

「色々な研究を知れる良い取り組みだと思いました。いい経験になりました。」

「参加している皆さんがどのような研究をしているのかを伺うことができ、とても良かったです。また、学会でお話を伺う参考にさせていただいて、ありがたい機会でした。」

遺伝学若手の会第二回研究交流会「We ♥ Genetics Vol.2」は、日本遺伝学会の後援により開催されました。心より感謝申し上げます。また、講演をご快諾いただいた寺井洋平博士、茶谷悠平博士に改めてお礼申し上げます。（文責・庄司日和）